



**ウルグアイ東方共和国**  
Oriental Republic of Uruguay

2007年4月現在



**一般事情**

- 1.面積 17.6万平方キロメートル(日本の約半分)
- 2.人口 346万人(2005年、ECLAC)
- 3.首都 モンテビデオ(約140万人、2004年)
- 4.民族 スペイン、イタリア系が大半
- 5.言語 スペイン語
- 6.宗教 カトリック教が大多数(信仰の自由あり)
- 8.通貨 ペソ

為替レート 1米ドル = 24.2ペソ(2007年1月)  
補助通貨単位 100センチモ = CENTIMO/S

- 9.査証(ビザ) 査証免除取極(1974年)
- 10.在留邦人数 380人(日系人約540人)(2005年12月)
- 11.在日当該国人数 127人(2005年)
- 12.電源 - V - Hz
- 13.国際電話 国番号 598 国際通話コード 0

コンセント・タイプ

- 14.シガレット 小売価格 1.44 US\$ (20本当り)
- 税率 66.5%
- 製造数量 3,900(百万本/年)
- シガレットメーカー

Compania Industrial De Tabacos	La Republicana S.A
Abal Hnos SA	Philip Morris
Compania Industrial de Tabacos Monte- Paz SA	
La Republicana SA	

**15.略史**

年月	略史
1825年	独立宣言(8月25日、独立記念日)
1903年	バジェ大統領、民主主義政策、社会保障整備を推進
1973年	極左テロ鎮圧により軍部台頭、議会閉鎖(軍政化)
1984年	軍部及び政党関係者の合意により民政移管を発表
1985年3月	サンギネッティ大統領就任(コロラド党)(民政移管)
1990年3月	ラカジェ大統領就任(国民党)
1995年3月	サンギネッティ大統領就任(コロラド党)
2000年3月	バジェ大統領就任(コロラド党)
2005年3月	バスケス大統領就任(EP/FA(進歩会議・拡大戦線党:左派))

**16.在外大使館・領事館**

在ウルグアイ日本国大使館  
Embajada del Japon en el Uruguay  
Bulevar General Artigas 953, Montevideo, Uruguay  
Tel: +598-2-418-7645 Fax: +598-2-418-7980

**17.駐日大使館・領事館**

ウルグアイ東方共和国大使館  
Embassy of the Oriental Republic of Uruguay in Japan  
〒106-0031 港区西麻布4丁目12-24 第38興和ビルディング9階908号室  
電話: 03-3486-1888、03-3486-1750

**政治体制・内政**

- 1.政体 立憲共和制
- 2.元首 タバレ・ラモン・バスケス・ロサス大統領(任期5年、大統領連続再選禁止)
- 3.議会 二院制(上院31名、下院99名、共に任期5年、上院議長は副大統領が兼任)

主要政党の議席数:  
(上院)EP/FA 17、国民党 11、コロラド党 3  
(下院)EP/FA 52、国民党 36、コロラド党 10

- 4.政府 (1)首相名 なし(副大統領 ロドルフォ・ニン・ノボア)
- (2)外相名 レイナルド・ガルガム・オストゥニ

**5.内政**

保守系二大政党であるコロラド党、国民党の両伝統政党、及び1970年代より成長した左派勢力(進歩会)1973年から1985年まで軍事政権。その後サンギネッティ(コロラド党)、ラカジェ(国民党)、バジェ(コロラド)2000年に発足したバジェ政権は、政権発足後、2003年まで伯・亜における経済危機のウルグアイへの影響2004年10月、大統領選・両院議会選が実施され、バスケスEP-FA総裁(進歩会議・拡大戦線党:左派連右選挙において、EP-FAは国会でも勢力を拡大し、上下両院で過半数をおさえた。なお、その後も同党は2005年5月の地方選挙で勢力を更に拡大する等伸張・安定傾向にある。バスケス政権は基本的に穏健な政策を展開。社会的弱者への対策を優先視し、発足早々に右対策の実また、行政(省庁再編)、税制(所得分配公正化)、司法(手続簡素化)等の諸改革や地方分権化等を重点目標景気の回復に伴い、国民の生活水準に改善傾向が見られることもあり、国民の間ではバスケス政権に特段

## 外交・国防

### 1.外交の概要

小国の立場を踏まえた堅実外交を展開。緩衝国(バッファ・ステート)として、近隣の大国たる伯・亜との関  
また、イグレスアス米州開発銀行(IDB)前総裁、オベルティ第53回国連総会議長・現ラテンアメリカ統合連合  
バジェ政権は外交面で、メルコスールの強化のみならず、他の国・地域との通商協定拡大を促進し、産品  
これに対し、バスケス政権は当初メルコスール他近隣諸国との関係により重きを置く考えと見られたが、経  
特に米国とは、将来のFTA締結を見据えて2007年1月にTIFA(貿易投資枠組み協定)を署名し、同年3月に  
但し、メルコスールの他の加盟国同様、米国が創設を強く主張する米州自由貿易地域(FTAA)には慎重な  
なお、前政権下で外交関係を停止していたキューバとは、政権発足と共に関係を復活した。  
最近、亜との国境付近にセルロース工場を建設する計画に亜の政府、議会等が環境保護の観点から反対

### 2.軍事力

- (1) 予算 2.25億ドル
- (2) 兵役 志願制
- (3) 兵力 陸軍15,200人、海軍5,700人、空軍3,100人(2006年ミリタリーバランス)

## 経済(単位 米ドル)

- 1.主要産業 牧畜(牛、羊)、食品加工業、皮革・羊毛業
- 2.GNI 151億ドル(2005年、世銀)
- 3.一人当たりGNI 4,300ドル(2005年、世銀)
- 4.経済成長率(%) (出所:ECLAC)

2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
-3.4	-11	2.2	11.8	6.6

### 5.物価上昇率(%) (出所:ECLAC)

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
5.1	3.6	25.9	10.2	7.6	4.9

### 6.失業率(%) (出所:ECLAC)

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
13.6	15.3	17	16.9	13.1	12.2

### 7.総貿易額(億ドル) (出所:ECLAC)

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
(1)輸出	21.4	19.2	22.7	31.5	37.6
(2)輸入	29.2	18.7	20.9	29.9	37.3

- 8.主要貿易品目 (1)輸出 肉類、米、皮革品、羊毛  
(2)輸入 機械類、輸送機械、化学製品

### 9.主要貿易相手国(2005年 IMF)

- (1)輸出 米国、ブラジル、アルゼンチン
- (2)輸入 アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ

### 10.通貨単位

- 11.為替レート 1米ドル = 24.2ペソ(2007年1月)(銀行間取引レート売買中間値、中銀)

### 12.経済概況

1999年のブラジル通貨切下げは、ウルグアイが輸出の4割を依存する伯・亜の経済を落ち込ませ、折から  
2000年以降、政府は財政引締めにも努力したが、早魃や口蹄疫の発生、亜経済混迷継続等の影響を受け、  
政府はIMF(国際通貨基金)と連携しつつ、財政赤字削減や各種増税策に係る措置を講じたが、2002年初  
政府は全銀行業務の一時停止措置を発動すると共に、「銀行システム強化基金法」を成立させた。  
これを受け、国際金融機関は対ウルグアイ融資枠を8億ドル増強した他、米国政府は右基金立上げのため  
一連の金融政策が功を奏し、また2003年後半から2004年にかけての農牧産品の好調、輸出増大を受け、  
成長率は2003年2.2%、2004年は11.8%を記録、2005年も6.6%。

経済面では、バスケス政権は前政権のマクロ経済政策路線を維持しつつ、対外債務の返済等国际的義  
2006年にはIMF及び世銀との融資プログラムを成立させる等により、国際的な信用も向上。しかし、牛肉等

### 13.対外債務 114億ドル(2005年、ECLAC)

## 経済協力

### 1.我が国の援助実績(2005年度までの累計)

- (1)有償資金協力71.66億円  
(「国土総合開発計画(1989年度)」5,300万ドル)
- (2)無償資金協力(E/Nベース)7.08億円
- (3)技術協力実績(JICAベース)128.74億円

### 2.主要援助国(2004年)

- (1)仏(3.3百万ドル) (2)西(2.7百万ドル) (3)日本(2.0百万ドル)

## 二国間関係

### 1.政治関係等

1921年9月24日外交関係樹立。  
1942年1月25日対日断交通告、1945年2月22日対日宣戦布告。  
1952年12月2日国交回復。  
経済関係を中心に友好協力関係発展。  
近年、我が国技術協力が活発化。  
経済分野を中心に先方の対日関心の高まりあり。  
2001年は外交関係樹立80周年として日本庭園建設等の記念事業・行事を実施。  
また2003年11月には、清子内親王殿下が皇室として初めてウルグアイを御訪問。

2.経済関係

(1)対日貿易(財務省貿易統計)(単位:百万円)

(イ)貿易額

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
総額	10,354	11,693	12,706	14,849	20,678
日本からの輸出	6,543	6,782	6,843	5,953	7,932
ウルグアイからの輸入	3,811	4,911	5,863	8,896	12,746

(ロ)主要品目

輸出 ウッドチップ、化学品、魚介類

輸入 一般・電気機器、プラスチック、自動車等

(2)我が国からの直接投資

累計47件 68億円(1951～2005年の累計)進出企業 3社

(3)国際金融機関等による資金協力

(イ)運輸セクター・ローン(世銀・JBIC協融)

1989年4月、118億2,400万円(8,080万ドル)

(ロ)ウルグアイによる円建て私募債発行(サムライ債)

1989年8月 25億円

1994年10月 100億円

2001年2月 300億円

2007年3月 300億円

3.文化関係

文化協定・取極なし。

文化無償をとして、平成18年度に「ソリス劇場音響及び視聴覚機材整備計画」を実施。

本件を含め、文化無償実績は3件。

4.在留邦人数

380人(日系人約540人)(2005年12月)

5.在日当該国人数

127人(2005年)

6.要人往来

(1)往(1984年以降)

年月	要人名
1984年	北川外務政務次官
1985年	安田特派大使(サンギネッティ大統領就任式)
1986年	倉成外相、田村通産相(GATT閣僚会議出席)
1990年3月	熊谷特派大使(ラカジェ大統領就任式)
1992年6月	竹下元総理
1995年3月	伊藤特派大使(サンギネッティ大統領就任式)
1996年7月	小川政務次官
2000年3月	谷特派大使(バジェ大統領就任式)
2001年8月	植竹外務副大臣
2003年11月	清子内親王殿下
2004年7月	有馬政府代表 (ALADIへの我が国オブザーバー参加記念式典出席)
2004年12月	小野寺外務大臣政務官
2005年3月	河村特派大使(バスケス大統領就任式)

(2)来(1989年以降)

年月	要人名
1989年2月	バリオス外相(大喪の礼参列)
1989年4月	ダブリェー予算企画庁長官(輸銀融資調印)
1989年6月	セルビーノ経済・財務相(私募債調印)
1989年9月	サンギネッティ大統領(公式実務訪問)、 バリオス外相、セルビーノ経済・財務相
1989年11月	セルビーノ経済財務相
1990年11月	トマシーノ最高裁長官(即位の礼)
1991年7月	ブラガ経済財務相(IDB名古屋総会) モンテスデオカ工業・エネルギー・鉱業大臣 (訪日経済ミッション)
1992年10月	グロス外相(外務省賓客)
1993年9月	アブレウ外相(ガットウルグアイ・ラウンド説明)
1994年4月	アチェ工業・エネルギー・鉱業大臣(訪日経済ミッション) アエド予算企画庁長官(訪日経済ミッション)
1995年7月	ガスパリ農牧水産大臣(米・牛肉の対日輸出ミッション)
1997年1月	ラモス外相 (在ペルー日本大使公邸占拠事件ウ国政府立場説明)
1997年10月	ラモス外相 (第2回日本・メルコスール高級事務レベル協議)
1998年6月	サンギネッティ大統領 (第5回日本IDB経済交流促進シンポジウム)
1999年2月	オベルティ外相(国連総会議長)
2001年4月	バジェ大統領(公式実務訪問)
2004年7月	ボルダベリ観光相(観光振興ミッション)
2005年4月	アストリ経済財務相(IDB沖縄総会出席)
2006年11月	レブラ工業エネルギー・鉱業大臣

## 7.二国間条約・取極

1934年 通商航海条約  
1974年 査証免除取極  
1989年 技術協力協定